

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年 9月17日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホームけやきの里
所在地	鹿児島県枕崎市まかや町679番地 (電話) 0993-76-346
自己評価作成日	平成25年7月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaken-sakyo.jp/kohyo">http://kaken-sakyo.jp/kohyo</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年 7月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、四季折々の景色が楽しめるけやきの里では、1年中花が楽しめます。花壇で花を育て、楽しみや生きがいに繋げています。又、愛犬「はな」と共に散歩やけやきの木の下でお茶など楽しんでいます。同敷地内にある交流センターで温泉を利用し、クッキング教室などの行事に参加、地域の方々との触れ合いを大切にしています。天気の良い日は日中できるだけ戸外での活動を支援し、夜の安眠へとつなげて、みなさん健康で活き活きと穏やかな生活をされています。又、隣接する介護老人福祉施設と協力し、夏祭りなど地域との連携、防災、職員研修など積極的に参加し職員の質の向上に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○周囲は田園が広がる自然豊かな環境に、介護老人福祉施設をはじめとする関連施設と同じ敷地に建てられているホームである。運営も一体的になされており、運動会や月見会等の行事や避難訓練・緊急時の対応など、相互に連携・協力できる体制が築かれている。グループの母体医療機関との連携も緊密で利用者や家族の安心につながっている。

○地域との交流は非常に活発であり、敷地内の公園や交流センターの温泉も地域の方々に開放するとともに、料理教室や各種の行事・避難訓練等への地域の方々の参加も多く、また、日常的に近隣の方々の訪問があり、庭の木陰で利用者とともにお茶を楽しんで頂いている。

○災害対策においては、消防署や地域の消防団・地域住民の協力のもとに、火災や地震・風水害も想定した避難訓練が、併設の関連施設の職員とも連携して計画的に行われている。併せて各関連施設が主催する防災訓練にも毎回参加しており、職員の強い意識のもと利用者の安全確保に積極的に取り組んでいる。

○管理者は、何よりも職員が連携して利用者のケアに取り組むことが大切と考えており、毎日のお茶の時間を活用して対応が必要な事案について意見交換を行っている。職員同士の連携も密に取れており、利用者へのケアや接し方について話し合い、業務改善やサービスの向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交わりを大切にすることを理念に掲げ、日常的に交流センターの温泉利用や散歩、併設の他事業所へ出かけお茶会など、地域の方々と交流を図っている。	ホーム独自の理念に沿って年度目標も作成して、地域との交流や「ゆとりある思いやり」を大切にして日々の暮らしの支援に取り組んでいる。名札への記載で理念の共有を図り、認知症ケアに関する研修も繰り返し実施してより良いケアにつながるよう努力を重ねている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物やドライブなどの途中で地域の方々とは話をしたり、他グループホームとの交流会など年間を通して実施している。	広い敷地には関連施設も多く、公園及び交流センターのホールや温泉等を地域の方々に開放するとともに、日常的に木陰のベンチでお茶のみが行われて交流は活発である。法人の夏祭りや運動会、料理教室などにも多くの地域の方々の参加があり、実習生の受入れやボランティアの来訪も頻繁で、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	見学者や実習生など随時受け入れを行い、認知症の人の理解やケアの方法の説明をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見や要望は勉強会やミーティングで取り上げサービスの向上に活かしている。	会議には利用者全員と家族代表、地域住民や市の担当者等が参加して定期的に開催されている。ホームの現況や問題点への取り組み状況等の報告がなされるとともに、委員からは避難訓練や認知症ケアに関しての意見も出され、具体的に日々のサービス向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎月現状報告を行っている。 又、近辺に来た際は立ち寄り交流を深めている。	市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、ホームからも毎月市の担当者を訪問して現況報告や意見交換を行うなど協働関係が築かれている。また、包括支援センターの担当者も毎月のようにホームへの訪問があり、頻繁に意見交換が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に勉強会をし、職員の理解を深めている。日中は、自由に出入りし、散歩や木陰でお茶を飲むなど、屋外活動を多く行っている。また立位不安定で自室で自由に過ごしたい方に対して居室を畳にし自由に行動できるようにしている。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を法人全体やホームで定期的実施して、理解を深めるとともにケアへの反映に努めている。職員は連携して安全を確保しながら利用者の自由な暮らしの支援に取り組み、近隣の方々とは日頃の交流も活発で、見守りや声かけをしてもらえるような関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会をし、全職員が虐待に対する弊害を心得ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	併設事業所の勉強会に参加し、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、ケアに対する考え方や取り組みを説明している。退去についても家族や本人の意向を聞くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議やけやき便り、面会時などで、現状を報告し意見や要望など伺うようにしている。出された意見や要望は、サービスに反映するようにしている。	利用者の思いや意見は声かけや所作の見守り等で把握に努めるとともに、ご家族とは主に来訪時の対話や誕生会・クリスマス会の際に、話しやすい雰囲気作りを図り意見を頂くようにしている。毎日の休憩時間を利用したミーティングや毎月の職員ミーティングで内容を共有し、必要な対応は十分に話し合い、速やかに本人や家族に報告してケアへの反映に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期往診等の機会に相談や意見を伺う等気づきノートに思いや感じたことを書くようにし、ミーティングで検討し、サービスに繋げている。	管理者自身が、職員が連携してケアに取り組むことが大切と考え、毎日のお茶の時間を活用して話し合い、特に日々のケアについて必要な意見交換を行っている。対応については必要な場合はご家族にも報告し、業務改善や利用者へのサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	利用者に合わせた臨機応変を基本に職員の休憩時間をはっきり決めている。又、休みの希望など可能な限り応えていくよう勤務表を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実務者研修など外部の研修への参加や、毎月1回の法人勉強会、月2回の事業所勉強会を開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設や事業所との交流会を実施。情報交換を行い、ケアの向上に役立てている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に出向いて面接や見学などして頂き、本人・家族に、ここでの暮らしぶり、食事の様子を見てもらうなどの機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での状況や以前の介護保険サービス状況について尋ね、事業所としてどのように対応できるか話し合い、ケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望があれば他のサービス（デイケアなど）の利用も可能であることを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花壇に花を植え花の手入れや野菜作りなどに職員・利用者と共に取り組み、料理の手伝いや掃除など日常で役割を持ってもらいお互い支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やけやき便りにて生活状況を報告し、家族と共に考えていくようにしている。必要であれば手紙や電話で連絡し、要望を伺っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物・ドライブ時利用者の地元を通ったり、家族へも法事など親戚の集まりなどの時は、一時帰省や外泊を勧めている。	併設の関連施設にも利用者の馴染みの方々が多く、日常的に交流を積極的に支援している。近隣の方々の来訪も多く、庭の木陰でのお茶のみも頻繁に行われている。本人が希望する買い物やドライブ、一時的な帰宅、教会のミサなどへ可能な限り同行に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いにお茶を入れあったり散歩のとき手を差し伸べたりと仲の良い入居者同士、お互い助け合いやすい座席の位置や散歩時の配置など考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設に面会に行くなど関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	状態変化や不穏の時が多くなってきた時など入居前や生活歴などアセスメントをしプランの見直しなど家族と相談し実施している。	職員は日頃の利用者の表情や言動、またご家族からの情報を基にして、思いや意向をくみ取るように努めている。日々のミーティングで情報の共有を図り、家族とも相談しながら利用者にとってよりよい支援となるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時のカンファレンス、家族の面会時や本人との語りの中で察したり伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の表情や気分の観察を常に心掛け、その人の出来ること、出来そうなことを促している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の気づきノートから個別支援経過（ケース記録）としてまとめ、家族、本人、職員を含めて話し合い、本人の望む生活を支えることを心がけてケアプランを作成している。	介護計画は、利用者及びご家族の思いや意見を聞き取り、また、主治医や看護師をはじめとする関係者や、職員全員の意見も基にして利用者本位のものを作成している。支援の経過はケース記録に丁寧に記入され、計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・気づきノートをホールへ置き、いつでも記入できるようにしている。ノートを基にミーティングや朝夕の申し送り時に取り上げ情報の共有を図っている。ケース記録に記入、必要に応じてプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、買い物や墓参り、通院時の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域消防団との連携が取れており防災訓練、救急法の講習など定期的に実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携をとり、通院や往診など必要な時に、適切に医療を受けられるよう支援している。	母体医療機関をはじめとして本人やご家族の意向に沿って適切に診療が受けられるように支援している。月1回の医師の往診と訪問看護が毎月2回行われ、夜間は隣接の特養の当直医や看護師と連携が図られており、本人やご家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問し、指導や相談をしている。又、併設施設の看護婦に緊急の場合などいつでも相談できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の往診を受け、入院時も情報の共有化や看護職員との面識、連絡体制も構築されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に家族へ重度化対応・終末期ケア対応指針を説明し理解を得ている。又、アンケートを取り、本人、家族の希望を踏まえて訪問看護師や主治医、協力医の指導のもと希望に添えるよう努力している。	重度化や終末期の対応については、入居時に指針を文書で説明し、アンケートも活用して本人やご家族の同意を得ている。母体医療機関及び夜間は隣接の特養の当直医と24時間体制で連携が取れる状況であり、状況の変化にも可能な限りの支援・対応ができる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、隣接している施設の看護師へ連絡するようマニュアルを作成し手順に添って対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	地震を含めた防災・避難訓練や消火訓練を夜間も想定し、行っている。	消防署や地域の消防団・地域住民・関連施設の職員等も参加する、夜間を含めた避難訓練を年2回行うとともに、法人全体及び併設の各関連施設の避難訓練にもその都度参加している。関連の研修やマニュアルの整備もなされ、食料や飲料水等の備蓄も十分な状況である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前呼び方話題の提供（話しかけ）時に配慮し、会話の際も敬語を使うよう心掛けている。	委員会の設置やマニュアルの整備並びに接遇や個人情報保護等の研修の充実を図り、利用者の尊厳やプライドを損ねるような声かけや言葉遣い・対応の防止に努めている。個人記録の管理や居室の保護にも十分に配慮がなされ、利用者に人格や感性を大切にされた対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や入浴など希望を伺いながら援助し、洋服選び等は、本人に確認しながら一緒に準備している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時などそれぞれの時間で行動しており、食事食べない時はおにぎりなどにし後で提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節ごとに衣類を準備し、自分で選んでもらい、できない方は職員と共に選び、できないことは支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りや盛り付け、片づけなど役割を持ち行っている。またテレビを消し会話をたのしみながら食事ができるようにしている。	栄養のバランスや水分摂取・おやつ・根菜類や旬の食材の活用など、利用者の楽しみや体調を考慮したメニューを工夫している。食卓の準備や後片付けなど利用者と一緒にしている。併設の支援ハウスとの交流や家族との食事の機会などには、パン作りやバイキングなど企画して楽しい雰囲気作りに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接している施設の管理栄養士にアドバイスをもらいながら多くの食材を用い、バランスの良い食事を提供している。又いつでも水分（お茶など）が摂れるように準備している。水分が摂れにくい方へは、本人の好む例えば甘い物など勧め量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方へは声掛けにて口腔ケアを促し、できない方は義歯洗浄、うがいなど支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を基に、個別にトイレ援助を行っている。できるだけトイレでの排泄を心がけている。	利用者個々の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように、排泄チェック表を活用して、不安や羞恥心にも十分配慮しながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。利用者個々に合わせた適切な対応になるように職員が十分に話し合い、ケアプランにも組み込んで実践に努めている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れた献立にしたり、水分を多くとってもらえるよう本人の好みに合わせた飲み物の工夫をしている。また散歩などを毎日実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めているが希望があれば毎日でも入浴できるよう柔軟に対応している。併設の交流センターの温泉も利用している。	基本的には週3回の入浴で、そのうちの1~2回は併設の地域交流センターの温泉でゆったりと楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には、言葉かけの工夫や時間帯を変更するなど、スムーズに入浴して頂けるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・希望など本人に伺いながら希望に添った対応をしている。また昼食後昼寝の時間をもうけ寝たい人は昼寝をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルに手順のマニュアル（薬の説明書）を掲示しており、全職員がファイルに目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で掃除や洗濯物たたみ、食事作り、野菜や花作り、買い物など可能なことを一緒にできるよう支援している。天気の良い日は屋外で散歩やお茶などし気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩や定期的にドライブ・買い物を実施し、家族から外出の連絡があれば速やかに外出できるよう支援している。	広い敷地には公園もあり、日常的に散歩や体操、時には花壇の手入れなどを行っている。庭の木陰では近隣の方々とお茶を楽しんだり、併設の関連施設の利用者との交流も頻繁である。また、時には買い物やドライブに出かけたり、ご家族とも相談しながらイベントやソーメン流し等、可能な限り多くの支援を行い、外出が楽しみとなるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小使いを一部の方が自分で管理している。買い物に行った時など好きな物を買えるよう声かけしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があればその都度支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームの周りに季節の花を植え、仏壇や玄関、ホールには季節の花を飾り、水槽で金魚を飼っている。またくつろげるようにソファを置いている。</p>	<p>広い敷地には花壇も多く配置され、季節の花が栽培されている。日当たりのよいテラスや庭の木陰のベンチでは、季節に合わせてお茶のみや日光浴が楽しめる。リビングはゆったりと明るく、室温や換気にも十分な配慮が感じられ、玄関や仏壇を含めて季節の花が飾られている。周囲の壁には季節感のある貼り絵も見られ、ソファも配置されて気持ちよくくつろげるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファを置き、仲の良い人同士自由に話や昼寝などをされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅よりタンスや鏡代、座椅子や写真など持ち込み、家族の面会時など配置換えなども行っている。畳の部屋が好みの方などくつろげる場所作りをしている。</p>	<p>居室はホームが準備した物のほかに、本人やご家族の希望に沿って使い慣れた家具や身の回りのものを自由に持ち込んで頂き、その人らしく落ち着いて暮らせるように支援している。利用者が暮らしやすいように、本人やご家族からの希望にそって柔軟に対応するよう心がけている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホールには手すりを取り付け、移動の際利用されてい。ベッドにも立ち上がりしやすいよう、移動バーをつけている。又自分の席がどれか困る人に対して、部屋や椅子、湯飲みに名前を書いてある。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない